

(科目コード : 8705720004KK)

【改訂】第31版(2013-03-13)

【科目】化学・生物英語

【科目分類】 専門科目 【選択・必修の別】 必修 【学期・単位数】 前期・1単位

【対象学科・専攻】 物質 4年

【担当教員】 赤羽 良一

【授業目標】

表現する英語、特に書ける英語をめざす。1) 化学や生物学の学術論文の実験の部で使われる基本的表現に習熟する。

2) 1)を含め、学術論文、手紙、学会発表等で用いる英語表現の基礎を学習し、実際の場での使い方を学ぶ。

【教育方針・授業概要】

本科目の総授業時間数は22.5時間である。この授業は講義形式をとるが、実際には、基本的説明に加えて、演習(英文読解、英作文)を数多くおこなう。特に、英語を作る、すなわち、いかに言いたいこと、書きたいこと、つまり表現したいことを英語にするか、を中心に学習する。ポイントは以下のとおりである。

1. なぜ化学英語を学ぶのか
2. 基本的英文法の復習
3. 基本的文形の復習
4. 言い回しを覚える

a) よくでてくる単語

b) よくでてくる熟語

5. 普段話している日本語と論文を書くときの日本語の違い
6. 発想を変える

a) 英作文をするときの注意：日本語の単語、文章にこだわらず内容(何が言いたいのか)を考えて表現する。

b) 英文を訳すときの注意

【教科書・教材・参考書等】

英語で書く科学・技術論文、谷口滋次、田中敏宏、飯田孝道、J.D.Cox、著、東京化学同人、化学英語の活用辞典、第2版、足立吟也、ら編、化学同人注)

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

講義形式であるが、パワーポイントを利用したプレゼンテーションも行う予定である。

【URLアドレス】

Homepage of Ryoichi Akaba : <http://www.chem.gunma-ct.ac.jp/org/akaba/index.html>

【成績評価方法】

[前期]中間試験：50%，期末試験：50%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	英語で書かれた科学全般および化学、生物学の学術論文の実験の部が理解できる。	30%	中間試験、期末試験で評価する。
2	科学全般および化学、生物学の学術論文に使われる基本的表現を英語で書ける。	40%	中間試験、期末試験で評価する。
3	科学全般および化学、生物学の学術論文に頻繁に使われる英語の単語について知識がある。	30%	中間試験、期末試験で評価する。

【本校の学習・教育目標】

(E-3) 英語の基礎的な文章を理解し、また英語で簡単な内容を伝えることができる

【授業計画】(化学・生物英語)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
1	なぜ化学英語か	英語をどうして学ぶか、化学英語とは。発想、感覚を学ぶために。		
2-7	英語を読む	構文を理解する(熟語、構文、特に不定詞、関係代名詞)		
8	英語を読む、書く	前半のまとめ。アメリカの実験室で。		
9-12	英語を書く	英作文の訓練(論文の実験の部を英語にする)		
13-15	英語を書く	英作文の訓練(よく使う表現を憶える)		